

# 第1回

# 新・短期合格力完成テスト

(神奈川県公立版 全5回)

国語

## 国語

### 注意事項

- 1 開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 問題は問五まであり、1ページから14ページに印刷されています。
- 3 答えは、解答用紙の決められた欄に、記入またはマークしなさい。
- 4 数字や文字などを記述して解答する場合は、解答欄からはみ出さないように、はっきり書き入れなさい。
- 5 マークシート方式により解答する場合は、その番号の○の中を塗りつぶしなさい。
- 6 解答用紙にマス目(例： )がある場合は、句読点などもそれぞれ一字と数え、必ず一マスに一字ずつ書きなさい。なお、行の最後のマス目には、文字と句読点などを一緒に置かず、句読点などは次の行の最初のマス目に書き入れなさい。
- 7 終了の合図があったら、すぐに解答をやめなさい。

所要時間50分

問一 次の問いに答えなさい。

ア 次の1～4の各文中の 線をつけた漢字の読み方を、ひらがなを使って現代かなづかいで書きなさい。

- 1 累積した赤字を解消する。
- 2 わずか一点差で惜敗する。
- 3 社会生活の秩序を守る。
- 4 観光資源は国の発展を促す。

イ 次のa～dの各文中の 線をつけたカタカナと同じ漢字を含むものを、あとの1～4の中から一つずつ選び、その番号を答えなさい。

- a 書類をフクシャする。
- 1 薬のフクサヨウに注意する。
  - 2 迷路のようなフクザツな通路を抜ける。
  - 3 傷んだ壁画をシユウフクする。
  - 4 山のチユウフクまで登る。
- b 倉庫に食料をチヨソウする。
- 1 発展途上国への資金援助をソウガクする。
  - 2 健康診断で主なソウキを検査する。
  - 3 監視カメラのガソウを分析する。
  - 4 個人がシヨソウする絵画を借りて出展する。
- c 利益をキントウに分配する。
- 1 車両の進入がキンシされる。
  - 2 キンセイのとれた体になる。
  - 3 キンザイの農家が共同して野菜を出荷する。
  - 4 市役所にキンムする。
- d 標本から不純物をノゾク。
- 1 政情がケンアクになる。
  - 2 弁解のヨチがない。
  - 3 制限をカイジヨする。
  - 4 詩集の初めにジヨブンをつける。
- ウ 次の例文中の 線をつけた「ような」と同じ意味で用いられている「ような」を含む文を、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

例文 どこかで彼に会ったような気がする。

- 1 鳥のくちばしのような鋭い矢じりを作る。
- 2 彼のような勇敢な人を見たことがない。
- 3 事件が解決に向かうような状況である。
- 4 ミルクのような白い霧が湖面に漂う。

エ 次の俳句を説明したものと最も適するものを、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

のぼりゆく草ほそりゆく天道虫

中村 草田男

- 1 細い緑の葉をのぼっていく天道虫を近い距離で見つめ、初句と二句の語末に「ゆく」の同音を配することで天道虫ののぼる動きに伴って草が細まっていく様子を、目に映るままに表現している。
- 2 天道虫のかすかな動きにしたがって細まり不安定になる葉を見えるままに描くことで、生い茂る草の中にひっそりと生きている天道虫に感じた生の不安定さと不安感を、象徴的に表現している。
- 3 夏の朝の冷涼とした空気の中、天道虫がひそかだが着実にひと葉の上を歩むその姿を、顕微鏡で微細に観察するような視点で見つめ、天道虫の生の躍動感を体言で終止することで表現している。
- 4 繁茂する夏草の全体からズームアップするようにそのひと葉に視点を移動させ、天道虫の動きをとらえ、天道虫がしがみついて葉を食べ、自分を支えられなくなるような不安感を表現している。

問二次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

今は昔、京に男ありけり。その妻（産出してしきりに）産してもはらに肉食を願ひけり。男、心（思ひ悩んで）に思ひあつかひて、いまだ明けざるほどに、自ら弓を取りて家を出でぬ。「池に行きて池にゐたらむ鳥を射て、この妻に食はしめむ」と思ふゆゑになり。池の辺りに寄りて草に隠れてうかがひるたるに、鴨（めんどろ）の雌雄、人ありとも知らずして近く寄り来たりたり。男これを射るに、雄を射つ。<sup>1</sup>極めてうれしく思ひて、池に下りて鳥を取りて、いそぎて家に帰るに、日暮れぬれば、棹（さし）のあるに打ちかけて置きて臥しぬ。

男、夜半ばかりに聞けば、この棹にかけたる鳥ふたとふためく。しかれば、「この鳥の生き返りたるか」と思ひて、起きて火を灯して行きで見れば、死にたる鴨の雄は棹にかかりてあり。傍らに出でたる鴨の雌あり。「雄の射殺されぬるを見て、夫を恋ひて、取りて来たる尻（しし）につきて、ここに来にけるなりけり」と思ふに、男、あはれに悲しきこと限りなし。<sup>2</sup>

寝たる妻を起こして、このことを語りてこれを見しむ。妻またこれを見て悲しむこと限りなし。つひに夜明けて後も、この鳥の肉を食ふことなかりけり。

男、貴（たが）き山寺に行くに、もどどりを切りて法師となりにけり。<sup>3</sup>

「今昔物語集」から。一部表記を改めたところがある。

ア 線1「極めてうれしく思ひて」とあるが、このときの男の「うれしい」「気持ちの理由を説明したもとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 鴨を射ることができ、妻に肉を食へさせてあげられると思ったから。
- 2 雄の鴨、雌の鴨が、予想に反して自分から近寄ってきてくれたから。
- 3 鴨を射ても当てるのが難しいと思ったのが、偶然に雄に当たったから。
- 4 妻に、雌よりもおいしいという雄の鴨の肉を食へさせることができるから。

イ 線2「あはれに悲しきこと限りなし」とあるが、その意味として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 とてもみじめなものに感じた。
- 2 しみじみと深い感動を味わった。
- 3 この上なくかわいそうに思った。
- 4 悲しさをこえていとしさを覚えた。

ウ 線3「法師となりけり。」とあるが、「男」が「法師」になった理由として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 生き物を殺したうえに、その肉を妻に食べさせようとしたのは、仏の心に反し、仏の罰が自分に下ることを強く恐れたから。
- 2 雄の死を悲しんで追ってくる雌の鴨の思いを思うにつけ、自分の心が鴨の心にすら劣ると強く感じ、修行の必要性を感じたから。
- 3 無情な仕打ちをしてしまった鴨の供養をすることが、鴨の祟りから逃れて自分を救うことができる唯一の方法だと思ったから。
- 4 殺された雄の鴨を追う雌の鴨の心情を思うにつけ、無情な仕打ちをした自分を悔い、仏の修行の中で供養しようと思ったから。

エ 本文の内容と一致するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 手に入れた鴨を家の棹にかけておいたら、もう一羽の鴨が現れたので、男は偶然にも二羽の鴨を同時に手に入れることができた。
- 2 男が夜中に聞いた音は、棹にかけておいた雄の鴨が騒いで出しているものではなく、雌の鴨が羽をばたつかせている音だった。
- 3 どうしても鴨の肉を食べたいと言う妻の願いをかなえてやるために、男は、鴨を手に入れるためのわなを草の中に仕掛けた。
- 4 自分が射止めて棹にかけた鴨の姿があまりにも痛々しいので、男はどうしても食べる気になれなかったが、妻は喜んで食べた。

問三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

にいさん、これそうだろう。  
どれ。

兄はそばにいる弟のほうをふり向いた。そして、弟の差しだしたキノコを見た。しかし、すぐいった。  
それはちがうよ。こういうんでなくっちゃ。

彼は、自分で今とつたばかりのハツタケを、弟に示した。

これ、だめ！

<sup>1</sup> 弟は残り惜しそうに、とつたキノコをながめていた。

あ、カサの下にぎざぎざのないのはだめだよ、へビダケってね、毒のキノコなんだよ。

彼はまだ十一の少年だけれど、弟に対する時は、さすがに兄らしい落ちつきと、いたわりとがあった。  
弟が少ししょげているのを見ると、彼は気の毒になった。それでボール・パン(注)のような色をした、ハツタケのあたまを見つけると、すぐに弟に教えてやった。

真ちゃん、そこにあるよ。

弟はそれを聞くと、元気づいてそこらを見まわした。しかし、しら茶けた落ち葉のほかには、なんにも目にはいるものはなかった。兄はかさねていった。

そら、そこにさ。真ちゃんの足もとのところに。

どこに。

これさ。

と、兄は弟のそばに寄ってきて指さした。

葉っぱでわからないんだもの。これ？

弟は落ち葉を払いのけていった。

あ。

毒ダケじゃない？

ううん、これがほんとのハツタケだよ。

ぼく、とつてもいい。

いいとも。

弟はかがんでハツタケを抜いた。しかし、ぶ気味な虫でもつかんだ時のように、あわててキノコを離してしまった。

なんだって捨てっちまうの、真ちゃん。

兄はなじるようにいった。

だって、こわいんだもの。

何がさ？

弟はうつむいたまま黙っていた。

兄のくちびるには、微笑が浮かんできた。

ああ、キノコの色が変わったんで、驚いたんだね。なあに、そりゃ、なんでもないんだよ。ハツタケは、さわるとすぐ色が変わるんだよ。

<sup>2</sup> じゃ、大丈夫？

大丈夫さ。

弟は、やっと安心したといつぶつであった。  
もったいない。こんなかへ入れときよ。

兄はザルのかわりに、地上にうつら返しにしておいてある、自分の帽子をさした。弟は拾ってそのなかへ入れた。それから、ついでに、兄がとった、帽子のなかのキノコの数をかぞえてみた。

そのあいだに、兄は落ち葉をかさつかせながら、あつちこつちハツタケをあさっていた。兄が目をきよるきよるさせているようすは、ちょうど、朝おばあさんが背なかを丸くして、ふとんの上でノミを追いかけるかっこうとよく似ていた。弟はそれを見ると、わけもなく、うれしい気もちになってきた。そして、自分もまたすぐに背なかと目だまをまあるくして、タケ狩りをやりだした。もちろん、弟は兄の四半分もとれなかったけれど、マツ林のなかをはねまわって歩くことは、なんととっても、彼には愉快でたまらなかつた。

突然どしいんという響きがした。兄はふいと目をあげると、一間いっけんばかりさきの、少し傾斜になっている地面の上を、弟はころころところがっていた。おそろく、木の根か何かにつまずいたのだろう。はずみをくらつて、ころがりだしたものらしい。それを見ると、兄は思わずふきだしてしまった。弟が目の前で倒れたのだから、すぐにも駆かけて行って、起こしてやるのが当然のだが、その瞬間には、「弟」とか、「起こす」とかという考えは、まるでなかつた。それどころか、手を打って、はやし立てたいような気もちでいっぱいだった。しかし、次つぎの瞬間には、もう弟のそばにいた。そして、木の根かたでとまった、弟のからだを引き起こした。

その時の彼は、いたわり深い兄であった。彼は心配にふるえながら、弟を介抱した。ところが弟は起きあがると、兄の顔を見るなり、にやりと笑った。すると兄の顔もまた、ひとりでのほほえんでしまった。泣きだすと思つた弟が笑つたものだから、兄は急に気が軽くなつた。

弟は起きあがるとすぐに、笑えたくらいだから、どこもけがはしていなかつた。しかし、彼の笑いは妙ちきりんな笑いだった。もちろん、しくじりをやつたあとの、てれかくし笑いに相違ないのだが、それにしても、どこか変なところがあつた。よく見ると、それは弟の右のほつぺたに、したたか、どろがついていたからだつた。おそろく、倒れた時にくつついたものだろう。兄はそれを知ると、すぐに指でどろを落としてやつた。けれども、よく落ちないので、筒つつそでのなかに手を引つこめて、それでほつぺたをこすつてやつた。ところが、それでも、すっかりきれいならないものだから、今度は彼は、筒つつそでのさきにつばをくつつけて、丁寧ていねいにふいてやつた。そのあいだ、弟はおとなしくして、兄のやつてくれるままになつていた。

それから、ふたりはまたタケ狩りをやりだした。

しばらくしてから、兄はハツタケでいっぱいになつている帽子を取りあげて、得意そうにいった。

真ちゃん、こんなにとつたよ。

その時、突然うしろで大きな声がした。

やい、それを持つてくことはならねえぞ。

ふたりはびっくりして、その声のほうを見た。うしろに、山ばんのじいさんが立っていた。彼は待ち構えていたといわぬばかりに、ふり向いた少年の手から、キノコのはいつている帽子を取りあげた。そして、いきなり兄の横よこつつらを一つ、なぐりつけた。

ふてえ野郎だ。

しかし、年うえの少年は泣かなかつた。ただ顔をまっかにして、首をうなだれただけだつた。ところ



が弟のほうは、自分がなぐられたのではないけれど、急にわあっと泣きだしてしまった。

山ばんは、少年らが無断でハツタケ山を荒らしたことを、なお、くどくどとおこった。そして、

またはいつてくると、承知しねえぞ。

そういつて、ふたりをマツ林のそとに追い立てた。そこまでくると、じいさんは帽子のなかのハツタケを、自分のザルのなかにかけて、からになった入れ物を、少年にたたきつけたなり行ってしまった。

弟はなおおしく泣いていたが、ここんで、芝の上に落ちている兄の帽子を拾った。そして、それを兄に手わたそうとした。すると兄は、帽子を受け取らずに、いきなり、弟の横つらなぐりつけた。じいさんになぐられたので、そのとばうちりが、弟に飛んで行ったのだらうか。いや、いや。こうした場合、年したの者なんぞから親切にされると、何か知らないが、兄には一層たまらなかつたのである。弟は不意になぐられたので、前よりもはげしく泣きだした。と、その声につれて、今まで泣かずにいた兄も、弟をなぐっておきながら、またわあっと泣きだしてしまった。

それから、ふたりは長いこと泣いていた。はじめは、声を立てて泣いていたけれど、しまいには、ただ機械的に涙が出るだけだった。そして、あたたかい水たまが、ひっきりなしに流れているうちに、ふたりのほつべたは、何か柔かいものになでられているような、なんともいえない快感を覚えてきた。

その時、弟はちいさい声でいった。

にいさん、勘弁してね。

うん。

兄はただ「うん」といっただけだった。声はうるんでいるが、明かるい響きを持っていた。

やがて兄は、どろだらけになって帽子を拾って、ひぎの上で五、六度たたいた。彼はそれをかぶらないで、かた手に持ったまま、べつの手で弟の手をとった。そして、うちのほうへ歩きだした。しかし、ふたりはみちみち思いだしたように、なお、泣きじゃくっていた。

(山本 有三「兄弟」から。一部表記を改めたところがある。)

(注) ボール・パン＝ここでは、球形をしたパンのこと。

一間＝長さの単位で約一・八メートル。

筒そで＝和服で、そでの下の袋のような部分がない筒形のそで。

ア 線1「弟は残り惜しそうに、とったキノコをながめていた。」とあるが、そのときの「弟」の気

持ちを説明したもののうち、最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 「兄」が示したハツタケと自分がとったキノコの違いを、「兄」に聞くかどうか迷う気持ち。
- 2 とったキノコが、ハツタケとどこが違うているのかを細かく観察してみようと思う気持ち。
- 3 ハツタケと違ってとったキノコがハツタケでないと知って落胆したが、あきらめきれない気持ち。
- 4 とったキノコがハツタケではないといわれたが納得できず、もう一度見てほしいと思う気持ち。

イ 線2「大丈夫さ。」とあるが、「ここでの「兄」の気持ちをふまえて、この部分を朗読するとき、どのように読むのがよいか。最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 さわるの色が変わるキノコがあることを知らずに、ただこわがっている「弟」の不安を取り払ってやるうという気持ちを込めて読む。

2 とうとうとしたキノコの色が変わったというだけで、ひどくあわてている「弟」をからかってみたという気持ちを込めて読む。

3 大変な苦勞をしてやっと見つけ出したキノコなのに、毒があるかどうかさえわからない「弟」はかわいそうだという気持ちを込めて読む。

4 せっかく毒のないキノコの見分け方を教えてやったのに、いつまでも自分に頼ってくる「弟」は情けないという気持ちを込めて読む。

ウ 線3「兄の顔もまた、ひとりでにほえんできました。」とあるが、その理由として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 勢いよく斜面をころがっていく「弟」の姿が、こっけいだけだけでなく、どろだらけになっている「弟」の顔もおもしろかったから。

2 斜面をころがっていった「弟」のことが心配だったが、駆け寄ってみると「弟」が笑顔を見せたので、無事だとわかってほっとしたから。

3 「弟」が斜面をころがっていくという突然の出来事に驚いたが、いつものように、いたわり深くくれたように、安心できたから。

エ 線4「弟はおとなしくして、兄のやってくれるままになっていた。」とあるが、そのときの「弟」の様子を説明したものととして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 ころんだときに顔についたどろをとるうとしても、なかなかとれないことにいらいらしている。「兄」を目の前にして、おびえている。

2 ころんだときについたどろを落とすだけのことなのに、わざわざつばまでつけて手間取っている。「兄」の要領の悪さに、あきれている。

3 ころんで倒れた自分をすぐに助けに来てくれたり、顔についたどろを落としてくれたりする「兄」を頼もしく思い、安心している。

4 ころびはしたがけがはしていないのですぐにタケ狩りを続けたいと思っているのに、ゆっくり介抱する「兄」に、いらだっている。



オ 線5「いきなり、弟の横つつらをなぐりつけた。」とあるが、「兄」がそのようにした理由として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 山ばんの「じいさん」になぐられた自分が泣きたいのをがまんしているのに、なぐられてもいい「弟」がしくしく泣いていることに腹がたつたから。

2 自分をなぐり、ハツタケを奪った山ばんの「じいさん」に対する怒りが消えず、「弟」にその怒りとくやしさをぶつけたかったから。

3 せつかく帽子いっぱいにとったハツタケを山ばんの「じいさん」に持っていかれ、そのくやしさを誰にでもいいからぶつけたかったから。

4 山ばんの「じいさん」からなぐられて気が動転しているところに、年したの「弟」から親切にされて、年うえとしての立場がなくなってしまったから。

カ この文章について述べたものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 思いやりのある「兄」でいようと努める主人公が、逆境にあっても協力しようとしないう「弟」を見て、「弟」への日ごろの不満をおさえきれなくなる様子を、直接的な心情表現を多用しながら描き出している。

2 弟思いの主人公が、「弟」には強くなってほしいという一心からあえて厳しく接して自立させようと苦心する様子を、テンポよく場面を展開させる中で、多くの比喩表現を用いて印象的に描き出している。

3 「弟」をかわいがってきた主人公が、初めての自然体験に喜びを抑えきれない「弟」を見て、「兄」として「弟」を思う気持ちを深めていく様子を、短い会話を多用しつつ主人公自身の視点から描き出している。

4 「弟」をいたわってきた主人公が、思いがけない出来事の中で感情を抑えきれず「弟」に乱暴にふるまいつつも、いつもの兄らしさを取り戻していく様子を、作者の視点から平易な文体で描き出している。

問四 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

クリニックで若い患者さんが最近よく口にする**ことば**に、「ゆっくりしたいんです」というのがある。<sup>(注)</sup>大学で学生たちに「**どういうところに就職したい?**」ときけば、「ラクできる**ところ**」ということばもよく返ってくる。

いずれも、企業戦士や子育て中の主婦から見れば、すでに十分、ゆっくりしているしラクもしているような若者たちである。「仕事がつらい」と不眠やイライラを訴えて受診し、投薬で症状はかなり改善していたにもかかわらず、結局は退職してしまった若い男性が不満げな顔つきで言っていたことがある。

「ゆっくりしたくて仕事をやめたのに、家にいれたいで、親が次の仕事はどうするんだ、などとうるさく言う。ちっともゆっくりできないんですよ」

それでも、満員電車で出勤し、毎日のように遅くまで残業があった頃**に**比べれば、物理的にはかなり「ゆっくりしている」はずだ。そうきくと、「自分がイメージしていた“ゆっくり”はこんなじゃない」と答えが返ってきた。「学生時代に沖縄に旅行に行ったことがあったんですが、気候はいいし、地元の人**は**みんなやさしいし、**誰**も時間に追われずにのんびり暮らしてました。僕の言う“ゆっくり”ってあんな感じですよ」

つまり、出勤時間に縛られずに朝遅くまで寝ていらればいい、というわけではなく、そういう生活を送っていることを含めて、自分が周りの人たちにやさしく受け入れてもらっている状態、それが彼らの言う“ゆっくり”なのだ。のんびり、ダラダラしていることを親などに咎められたのでは、ただでさえ小さくなっている自己肯定の感情がますます目減りする。それでも「オレはゆっくりしたいんだ」と宣言するだけの自信、強さがあるくらいなら、会社などやめはしない……。そういう気持ちなのだろう。

「ラク」というのも同じだ。「**どうしてラクな会社に勤めたいの?**」ときくと、多くの学生は「つらい仕事なんてバカバカしいから」ではなくて、「たいへんな仕事なんて自分には無理だから」と言う。最近の大学では、「キャリア講義」などと称して社会の第一線で働く人たちを招いて講演をもらうのが流行っているが、毎日、終電で帰るシステムエンジニアや士、日返上の金融マンなどの話を聞いて、彼らは素直に「すごいなあ」と感心している。A、「僕もあいつぶつに活躍したい!」と仕事選びのモチベーションにまでつながることはまれで、「あんな仕事は自分にはできるわけではない。もっとラクな会社でなければ」ということになってしまつたのだ。あるとき、なかなか就職活動を始めない学生に、「あなたは本を読むのが好きでしょう。出版関係の仕事なんかは考えないの?」と尋ねたところ、「三年のときに編集者が講演に来てくれたことがありましたよね。あの人の猛烈な働きぶりを聞いて、ああ、自分には絶対、こんな仕事は無理だ、とわかつたんです」という答えが返ってきて、がっかりしたことがあった。就労意欲を高めるためのキャリア講義が、逆に「絶対ムリだ」と負の確信を強める結果になってしまったのである。

ゆっくりしたい、ラクしたい、と訴える若者たちは、いくら物理的には自由な生活を送っているように見えても、心理的にはいつも追い立てられ、自信を失い、少しも寛いでいないのだろう。「たればんだ」「リラックス」など周期的にヒットする脱力系のキャラクターも、必ず「そのままいいんだよ」というメッセージとともに描かれている。若者は、おだやかでちょっぴりだしらない、これらのキャラクターに自分を重ね合わせながら、「なんとなくパリッとできないキミと僕だけだ、これでいいじゃないか」と肯定してもらつたような気になるのだろう。B、「ゆっくりしたい」という若者が望んでいるのは、「それでいいんだ」と誰かから全面的に自分の存在を承認し、肯定してもらつたことなのであつた。

しかし本来、自己肯定感とは他人に与えてもらうものではなくて、自分自身で手に入れるべきものだ。場合によっては、他人が「ダメだ」ということであっても、自分が信じているなら実行するということさえあるだろう。ところが、今の若者たちはそこまでして自分の思いを貫きたいとは思わない。たとえば、「こうしたいな」「あそこに行ってみたいな」という希望があったとしても、必ず「いいじゃない、やってみなよ」「キミなら絶対できるよ」といったあふれんばかりの他者からの保証や承認がなければ、一歩を踏み出せない。それがなければ、夢や希望も自分で取り下げってしまったほうがマシ、と考える若者も多い。

他者から自分を認められた気になれず、自分でも自己を肯定できないまま、「さあ、何がしたいんだ？」と選択を迫られる若者は、気の毒といえば気の毒だ。彼らがそういった状況や心境を適切に言語化することもできないまま、「とりあえずゆっくりしたい」などと言ってしまつのも、無理はないかもしれない。とはいえ、「ゆっくりしたい」「ラクしたい」と訴える自信なき若者に、「キミが本当に望んでいるのは、ゆっくりすることではなくて自分が肯定され、必要とされることなんだよね？」などといきなり話しかけても、理解はしてもらえない。とりあえずは、脱力系のキャラクターなり沖繩のような<sup>(注)</sup>リゾート地なりで、「ゆっくりできた」という安堵感を体験することも必要だろう。しかし、問題はそれからだ。「ああ、環境や他人に受け入れられるってこういうことなんだ」と体得した彼らが、そこから歩き出すための方法も手段も知らないために、結局は「沖繩でゆっくり 地元であせり 沖繩でゆっくり……」といった際限のない<sup>(注)</sup>ループをたどりながら、<sup>5</sup>「生きているエネルギー」が目減りしていつてしまうのである。「ゆっくりしたい」と訴える若者に、「もう十分にゆっくりしてるじゃないか！」と怒鳴りつけても、何の解決にもならない。「ゆっくり」ということばに彼らが込めている思いを汲み取り、取りあえずは彼らを受け入れ、「ゆっくり」させてやらなければならない。ただ、若者たちも「ちょっとゆっくりできたな」と思ったら、そこから踏ん張って立ち上がり、ゆっくりはできない社会にも飛び込む決意や意欲を持つ必要があるだろう。いつまでもまわりからおだてられ、けしかけられないと何こともできないようでは、たとえそれがうまくいってもいつか必ず、「これは自分で選んだ道ではない。まわりに強制されたのだ」という不満がわいてくる。

とはいえ、これまで日本人の多くはゆっくりすること、ラクすることを罪悪だと思い、あまりにそれとはかけ離れた生活を送ってきた。わが子が「ゆっくりしたいよ」と言ったら、いいチャンスと思って父親も「オレも」とゆっくりすればいいと思うのだが、「息子が<sup>(注)</sup>二トだからオレがまだがんばらなければ」と奮起してしまう親が多いのは因果な話だ。

(香山<sup>かやま</sup> リカ「いまどきの『常識』」から。一部表記を改めたところがある。)

(注) クリニック＝診療所。ここでは精神科医である筆者の診療所を指す。

キャリア＝専門技能を要する職業についていること。

システムエンジニア＝コンピューターを用いた情報処理の仕組みの開発・設計・運用を行う技術者。

術者。

モチベーション＝動機づけ。

キャラクター＝漫画などの登場人物。

リゾート地＝行楽地、保養地。

安堵感＝心配事がなくなつて安心すること。

ループ＝くり返される一連の事柄。

二―ト＝教育を受けておらず、労働や職業訓練もしていない若者を指す造語。

ア 本文中の「A・B」に入れる語の組み合わせとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- |         |        |         |        |
|---------|--------|---------|--------|
| 1 A だから | B しかし  | 2 A しかし | B つまり  |
| 3 A そして | B たとえば | 4 A そこで | B あるいは |

イ 線1「自分が周りの人たちにやさしく受け入れてもらっている状態」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 時間というものに管理されることもなく、自分の思うように過ごしていることを周囲から承認されている状態。

2 自分の身勝手な行動に対して誰からも干渉を受けず、気の向くままに生活することを周囲から許容されている状態。

3 自由にできる時間が少ない中でも生活の仕方は強要されることがなく、自分の意志が周囲から尊重されている状態。

4 つらいことは意図的に避けようとする態度でいても責められず、自分の価値観が周囲から受容されている状態。

ウ 線2「がっかりしたことがあった。」とあるが、その理由として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 物理的に豊かな生活をしている若者に対して、精神的にも豊かになってほしいと思って実施している社会人の講義が、若者に拒否されてしまったから。

2 就職活動を始めないことが生み出す不利益を、若者にきちんと理解してもらいたいと思って提供している企画が、若者の反感を買ってしまったから。

3 仕事への意欲を強く持つてもらおうと思って、若者に働きかけている職業選びへの提案が、若者が興味を抱く分野とは全く異なる職業だったから。

4 若者が、仕事をするを前向きに考えるきっかけにしてほしいと思って行っている活動が、仕事に対する若者の姿勢を消極的にしてしまったから。

エ 線3「今の若者たちはそこまでして自分の思いを貫きたいとは思わない。」とあるが、それに対する筆者の考えはどのようなものか。それを説明した次の文章中の空欄に入れる語句として最も適するものを、これより前の本文中から、は四字で、は九字でそれぞれ抜き出し、そのまま書きなさい。

「ゆっくりしたい」と望んでいる今の若者たちは、たとえば、猛烈に働く人を見ても、自分には絶対にできないというを強く持ってしまう。したがって、彼らが自分の思いを貫くためには、他者から自分自身の存在をが不可欠である。



オ 線4『ゆっくりしたい』『ラクしたい』と訴える自信なき若者」とあるが、そのような「若者」に対して、筆者はどのようにしてほしいと考えているか。それを説明したものととして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 他人から励まし言葉をもらうと自己肯定感が得られるので、社会に飛び込み理解を得ることから始めてほしい。
- 2 環境や他人に受け入れられたと体得したら、ゆっくりはできない社会に自ら飛び込む決意や意欲を持ってほしい。

3 自己肯定の感情が得られないことは罪悪ではないのだから、ゆっくりはできなくても社会に飛び込んでほしい。

4 社会は今、自己を肯定できるような環境にはないので、焦らず、何をなすべきかを自分の言葉で考えてほしい。

カ 線5『だんだんに『生きるエネルギー』が目減りしてしまっ』とあるが、そのように言える理由として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 自分が希望したとおりのことが実現できても、認めてくれる人がなく自信を持ってないから。
- 2 ひとつのことをなすとげたとしても、自分の意志ではなく他者からの強制だったことだから。
- 3 自分が望むような状況を体験できても、次にどうすべきかということがわからないから。
- 4 ゆっくりしたいという自分の心境を言葉でうまく表現できないため、他者に伝わらないから。

キ 線6『因果な話だ。』とあるが、その内容を説明したものととして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 親が、経済的に困っている子どもを助けるのはしかたのないことだ。
- 2 子が自己肯定感をもてないのは親のせいなので改めるべきだ。
- 3 親が子の生活のために犠牲を払うことは望ましくないことだ。
- 4 ゆっくりするのは罪悪だと思っ日本の社会は不幸なことだ。

ク 国語の授業の中で、生徒たちがいくつかのグループをつくり、本文を読んだうえでその内容について話し合った。次の1〜4は、あるグループでそのときに出された意見の一部である。筆者が本文中で述べている内容と合っていないものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 「自分を認めてくれる人がまわりにいないと、せつかく抱えている夢があったとしても、その夢に向かって具体的な行動を起こせないといいのは、今の若者の特徴だと言えるんだね。」
- 2 「ゆっくりしたい、ラクしたいと思っっている若者が、人間以外のキャラクターに気持ちを動かされるのは、自分との共通点を感じることで自分が承認されているように思っからなんだね。」

3 「自己肯定の感情をなかなか持てない若者であっても、自分が望んでいることを言語化し、実行してみようという気持ちを持つことによっ、夢や希望をかなえることはできるんだね。」

4 「若者がゆっくりしたい、ラクしたいと訴える理由は、物理的に自由になる時間がないからではなく、自己が認められずに自信を失い、精神的に安心できない状況にあるからなんだね。」

問五 中学生のAさん、Bさん、Cさん、Dさんの四人のグループは、「総合的な学習の時間」に、ペット飼育に関する意識と、ペットによる事故について調べ、話し合いをしている。次のグラフ1、グラフ2、表と文章は、そのときのものである。これらについてあとの問いに答えなさい。

Aさん 本日はペットの飼育に関する意識と、ペットによる

事故について問題点を考えてみます。最初のテーマに関して、グラフ1・グラフ2を見てみましょう。

Bさん グラフ1を見ると、ペット飼育はいいことづくめに感じます。

Cさん 「生活に潤いや安らぎが生まれる」がトップで、「防犯や留守番に役立つ」は五位ですね。このことから、

Dさん そうですね。私が注目したいのは二十五%近い「お年寄りの慰めになる」です。高齢化社会でお年寄りが増えます増えていくでしょう。そんな中、お年寄りがペットに慰めを感じるというのは何かほっとする気持ちがあります。

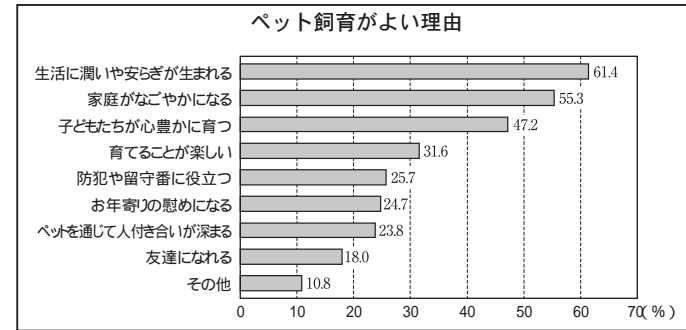
Bさん グラフ2の「ペット飼育による迷惑」ですが、これは、ほとんどが飼い主の意識の問題といえるのではないですか。飼い主のマナー、ふん尿、鳴き声、放し飼い、悪臭、感染症など、飼い主が注意し、しつけや予防をしつかりすれば、かなりの程度防げるよ

Dさん 私は、迷惑と感じている中に、人間に対して危害を加えられる怖さを感じているということが気になりました。「犬の放し飼い」と「危害を加えられるおそれがある」がその怖さに関係している回答だと思えますが、合わせると半分近くあります。

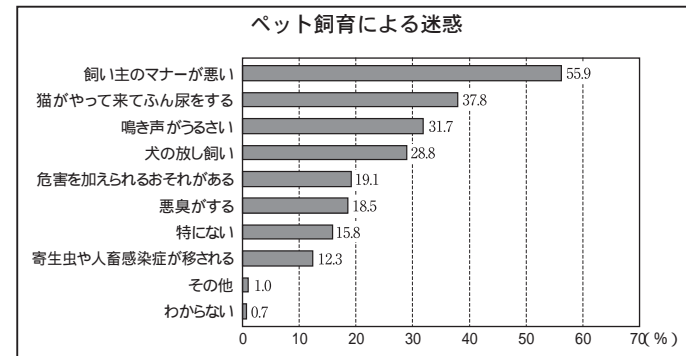
Aさん 動物にかまれる事故は、ほぼ百パーセントが犬によるものだと思います。実際に、犬にかまれる事故がどの程度あったかを調査したのが表の「犬による咬傷事故件数」です。

Cさん 事故の半数近くが「通行中」に、また、事故の半数以上が「公共の場所」で発生しています。これほど、ふだんの生活の中で事故が起こっているとは思いませんでした。全国ですが、年間で四千件以上です。

グラフ1



グラフ2



表

区分	咬傷事故の件数	咬傷犬数	被害者数	咬傷事故発生時における犬の状況					咬傷事故発生時の被害者の状況				咬傷事故発生場所		
				犬舎等にけい留中	けい留して運動中	放し飼い	野犬(放浪犬)	その他	犬に手を出した	配達・訪問等の際	通行中	その他	犬舎等の周辺	公共の場所	その他
				22年度	24年度	26年度	22年度	24年度	26年度	22年度	24年度	26年度	22年度	24年度	26年度
22年度	4,383	4,393	4,486	930	1,114	1,157	226	974	663	742	2,053	1,024	1,359	2,392	638
				21%	25%	26%	5%	22%	15%	17%	46%	23%	31%	54%	15%
24年度	4,198	4,218	4,340	901	1,130	1,063	182	943	678	651	1,972	1,036	1,351	2,357	494
				21%	27%	25%	4%	22%	16%	15%	45%	24%	32%	56%	12%
26年度	4,364	4,385	4,492	826	1,343	1,112	200	931	682	638	2,222	950	1,238	2,549	577
				19%	30%	25%	5%	21%	15%	14%	49%	21%	28%	58%	13%

環境省平成27年度版「犬による咬傷事故状況(全国計)」より再構成。

内閣府平成22年「動物愛護に関する世論調査」より再構成。



Bさん 「ペット飼育による迷惑」で挙げた同じ項目が、「咬傷事故発生時における犬の状況」の中にあります。グラフ2と表にある「犬の放し飼い」です。私は、グラフ2から、「迷惑」と三割近くの人が感じている「犬の放し飼い」の怖さを、飼い主はもっと真剣に考える必要があると思います。仮に飼い主が と思うからです。

Dさん 放し飼いをしないとして二十五、六パーセントの事故全てがなくなるわけではないでしょうが、大きく減るでしょう。在校生の中で、ペットを飼っている家庭も多いと思います。今回の話し合いの内容は、みんなに伝えればいいと思います。

Aさん 「ペットがよい理由」で挙がっていたように、ペットは、やすらぎや慰めを与えるすばらしい面があります。だからこそ、飼い主は、事故が起こらないようにふだんから気をつけることが求められているようです。

ア 本文中の [ ] に入れるものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 ペットが子どもたちのしつけや教育に大いに役立つと感じます。
  - 2 ペットが家族の間で問題なくかわいがられていると気づかれます。
  - 3 ペットが生活の安全を守るために欠かせない存在になっていることがわかります。
  - 4 実利的な理由というより、ペットに精神的なやすらぎを求めているようです。
- イ 本文中の [ ] に適するBさんのことばを、次の [ ] の条件を満たした一文で書きなさい。

書き出しの「仮に飼い主が」という語句に続けて書き、文末の「と思うからです。」という語句につながるように書くこと。

書き出しと文末の語句の間の文字数が四十字以上五十字以内となるように書くこと。

表の数値に触れていること。

「放し飼い」「という語句を、そのまま用いること。」

(問題)は、これで終わります。